

会計理論分析  
練習問題（修正版）  
2019年4月16日（4月17日修正）

**問題**

期首（時点0）の貸借対照表（B/S）が次のように与えられている。簡単化のため、期首の現金はゼロと仮定している。第1期に以下の仕訳の取引が行なわれたとする。なお、10番目の仕訳の金額 X は推測すること。

B/S (時点 0)			
現金	0	借入金	500
売掛金	200	資本金	400
商品	200	留保利益	100
備品	600		
	1,000		1,000

1	売掛金	250	売上	250	原価100の商品を250
2	売上原価	100	商品	100	で掛売上 (売上原価対立法)
3	現金	240	売掛金	240	売掛金回収
4	商品	110	現金	110	商品仕入
5	減価償却費	60	備品	60	減価償却費を計上 (期首の10%, 直接法)
6	備品	90	現金	90	備品購入 (期首の15%)
7	支払利息	20	現金	20	利息の支払い (借入金の4%)
8	現金	25	借入金	25	現金の借り入れ (期首借入金の5%)
9	法人税等	28	現金	28	税金の支払い (税前利益の40%)
10	留保利益	X	現金	X	配当の支払い

次の条件に基づいて、株主価値を求めなさい。

- ・第1期は上記の取引のみを予想している。
- ・第2期以降、売上高は持続的に5%成長すると予想する。また、第1期と同様の取引を予想しており、純事業資産、有利子負債、株主資本は持続的にそれぞれ5%成長する。設備投資は期首の15%、減価償却費は期首の10%とし、有形固定資産（備品）も5%成長するものとする。法人税等は税引前利益の40%とする。配当はCSRを満たすように決まる。
- ・負債の資本コストは利子率と等しく4%であり、株主資本コストは7%と仮定する。有利子負債は時価（価値）と等しいと仮定する。